論文要旨

初期における地下鉄道の成立過程

—高架鉄道との比較の観点から—

河野維一郎（経済学部 3 年）

指導教員：伊藤行雄

要旨

大阪市営地下鉄は多くの乗客を輸送し、特にその中でも御堂筋線は地下鉄第一号線として有名である。地下鉄道の開業は、大阪市の事業でも先端的なものであり、各所に大きな影響をもたらした。当時の市長であった関一の業績のひとつにも数えられる。本研究では、東京の銀座線に次いで 2 番目の開業であった御堂筋線を中心とした大阪における高速鉄道計画に対する考察を行った。高速鉄道建設計画は、1923 年に具体的な計画案が発表された。これは地下鉄道による計画ではなく、高架鉄道が主体となる計画であった。しかし、1925 年に発表された計画案では、地下鉄道が主体となっていた。

先行研究では、この高架鉄道から地下鉄道への変更理由について、様々な説が述べられており、一定していない。そのため本稿では、地下鉄道へと変更された経緯を時系列に従って、明らかにしていった。この調査の際には新聞記事の調査を主体として、2 つの高架と地下の計画に対し、どのような経緯をもって設定されていったかということを見ていった。

当初、高速鉄道が高架鉄道によって計画されていた理由として、地盤と工費の問題があった。しかし、地質調査が行われると、想定以上に良好な結果が報告され、地質に関しては障害ではなくなった。そして、関東大震災が発生すると、地下鉄道が優勢となり、結果的に地下鉄道が建設されることになった。このことに関して地下鉄道へと変更された要因を地震のみに求めている研究も多いが、本稿では、関東大震災以前に行われていた地質調査の重要性を確認し、地質調査によって地下鉄道への道筋が付けられたこと、さらに関東大震災によって地下鉄道への変更が確定したことが判明した。この流れは、先行研究では触れられていない重要な点であり、本稿の成果はこの点を指摘できたものと考えている。

なお、本研究は共同研究「都市と施設」の一部である。